

高 校 I 年

2025

Syllabus

職員室用

高田高等学校

学 科 名			普 通 科												
教 科	科 目	標 準 単 位 数	I 類 進 学						II 類						
			I	II		III		I		II		III			
				文	理	文1	文2	理	進学	特別選抜	文・特文	理・特理	文	特文	理・特理
国 語	現代の国語	2	2						2	2					
	言語文化	2	2						2	2					
	論理国語	4		2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
	文学国語	4		2		2	2								
	国語表現	4													
	古典探究	4		3	3	2	2	2			3	3	3	3	3
	表現基礎 (学)	2~3				2	2							3 ^B	
文学基礎 (学)	1										1		1	1	
地理歴史	地理総合	2		2	2						2	2			
	地理探究	3													3
	歴史総合	2	2						2	2					
	日本史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
	世界史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
公 民	公共	2	2						2	2	2				
	倫理	2													
	政治・経済	2				2		2					3	3	
数 学	数学Ⅰ	3	3						3	3					
	数学Ⅱ	4	1	4	4	3 } 3		4 ^T	1	1	3	3	3 ^A	3	
	数学Ⅲ	3				3 } 3		4 ^S				1			4
	数学A	2	2						3	3					
	数学B	2			2	3 } 3		1 ^T			2	2	2 ^A	2	1
	数学C	2			1			1 ^T 2 ^S			1	1	1 ^A	1	2
	数学基礎演習 (学)	2											2 ^B		
理 科	科学と人間生活	2					2								
	物理基礎	2	2						2	2					
	物理	4			3			4			4			4	
	化学基礎	2		2	2	1	2	4			2	2	2 ^A	2	4
	化学	4			2			5			3				4
	生物基礎	2	2	1	3	1	2	4	2	2	1	4	1	1	4
	生物	4			3			4			4				4
	地学基礎	2													
地学	4														
保健体育	体 育	7~8	3	3	2	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2
	保 健	2	1	1	1				1	1	1	1			
芸 術	音 楽Ⅰ	2	2	1					2	2					
	音 楽Ⅱ	2					2								
	音 楽Ⅲ	2													
	美 術Ⅰ	2	2	1					2	2					
	美 術Ⅱ	2		2	1		2			2	2				
	美 術Ⅲ	2													
	工 芸Ⅰ	2													
	工 芸Ⅱ	2													
	工 芸Ⅲ	2													
	書 道Ⅰ	2	2	1					2	2					
書 道Ⅱ	2						2								
書 道Ⅲ	2														
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3	4					
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4						4	4	3 ^B		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4					4	4	4
	論理・表現Ⅰ	2	3						3	3					
	論理・表現Ⅱ	2		3	3						3	3			
	論理・表現Ⅲ	2				3	3	2					3	3	2
家 庭	家庭基礎	2	2						2	2					
	家庭総合	4													
情 報	情報Ⅰ	2				2	2	2					2	2	2
	情報Ⅱ	2													
理 数	理数探究基礎	1													
	理数探究	2~5													
宗 教	一般仏教 (学)	2~3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	宗乗・余乗 (学)	(5)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6 ()	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)
科目の単位数の計			34	33	33	33	33	33	35	36	35	35	35	35	35
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計			35	34	34	34	34	34	36	37	36	36	36	36	36

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2 単位	履修学年	1 年 類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を介した思考を深め、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力を伸ばし、自身および外界について適切に理解し表現する力を身につける。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的な思考により、国語でなされた表現を適切に理解するとともに、自らの思考や感性を状況に応じた言葉により表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】現代の国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・国語新総合演習1（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・『生きもの』として生きる 〈ものの方見〉 ・「水の東西」 〈比較文化〉 <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比 「間の感覚」 ・具体と抽象 「日本語は世界をこのように捉える」 			<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析し、筆者の主張をまとめる。 ・事柄が的確に伝わるように表現の仕方を工夫する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「羅生門」 ・「夢十夜」 ・「フェアな競争」 〈社会・政治〉 <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見 「『私作り』プライバシー」 ・推論 「Aは哲学できるか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 ・比喩などの修辞を理解する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロビンソンの人間と自然」 ・書いて伝える <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠 「デザインの本意」 ・主張と反論 「『動機の語彙論』という視点」 			<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との関係を理解する。 ・反論を示すことによって自分の主張の正しさを伝える論理の展開の仕方を理解する。 ・表現の工夫を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週漢字の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 ・読書の意義と効用を理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	現代の国語	単位数	2 単位	履修学年	1 年 II 類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を介した思考を深め、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力を伸ばし、自身および外界について適切に理解し表現する力を身につける。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的な思考により、国語でなされた表現を適切に理解するとともに、自らの思考や感性を状況に応じた言葉により表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】現代の国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・国語新総合演習1（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・『生きもの』として生きる（ものの見方） ・「水の東西」（比較文化） <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比 「間の感覚」 ・具体と抽象 「日本語は世界をこのように捉える」 			<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析し、筆者の主張をまとめる。 ・事柄が的確に伝わるように表現の仕方を工夫する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「羅生門」 ・「夢十夜」 ・「フェアな競争」（社会・政治） <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見 「私作り」プライバシー ・推論 「A」は哲学できるか 			<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 ・比喩などの修辞を理解する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロビンソンの人間と自然」 ・書いて伝える <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠 「デザインの本意」 ・主張と反論 「動機の語彙論」という視点 			<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との関係を理解する。 ・反論を示すことによって自分の主張の正しさを伝える論理の展開の仕方を理解する。 ・表現の工夫を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週漢字の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 ・読書の意義と効用を理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	現代の国語	単位数	2 単位	履修学年	1 年Ⅱ類特選
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を介した思考を深め、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力を伸ばし、自身および外界について適切に理解し表現する力を身につける。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的な思考により、国語でなされた表現を適切に理解するとともに、自らの思考や感性を状況に応じた言葉により表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】現代の国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】常用漢字ダブルクリア（尚文出版）・国語新総合演習1（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・『生きもの』として生きる 〈ものの見方〉 ・「水の東西」 〈比較文化〉 <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比 「間の感覚」 ・具体と抽象 「日本語は世界をこのように捉える」 			<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析し、筆者の主張をまとめる。 ・事柄が的確に伝わるように表現の仕方を工夫する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「羅生門」 ・「夢十夜」 ・「フェアな競争」 〈社会・政治〉 <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見 『私作り』プライバシー ・推論 「A I は哲学できるか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 ・比喩などの修辞を理解する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロビンソンの人間と自然」 ・書いて伝える <p>【論理分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠 「デザインの本意」 ・主張と反論 『動機の語彙論』という視点 			<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との関係を理解する。 ・反論を示すことによって自分の主張の正しさを伝える論理の展開の仕方を理解する。 ・表現の工夫を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週漢字の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 ・読書の意義と効用を理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	言語文化	単位数	2 単位	履修学年	1 年 類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像しようとし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】 言語文化（第一学習社）</p> <p>【副教材】 新明説総合古典文法（尚文出版） 新明説漢文（尚文出版） 核心古文単語 3 5 1（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『宇治拾遺物語』『竹取物語』『伊勢物語』 ・古典文法（歴史的仮名遣い、品詞の種類、用言の活用など） <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓読に親しむ（返り点、助字、置き字、再読文字、構造など） ・『戦国策』 			<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文章に慣れ、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・作品に表れているものの見方や考えを的確に捉え内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・漢文を訓読するための基礎知識を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れ漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解する。 			
2	<p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『枕草子』『土佐日記』『徒然草』 ・古典文法（助動詞、助詞など） <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『十八史略』 ・唐詩 			<ul style="list-style-type: none"> ・随筆や日記を読んで当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方や考え方を理解し内容や展開を的確に捉える。 ・史伝の舞台となる時代背景を知り、作中に描かれた人物像や論理の巧みさを読み取る。 ・漢詩を鑑賞し当時の人々の思いを理解する。 			
3	<p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』他 ・古典文法（敬語、和歌の修辞） <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語』他 			<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語を読み、争いを背景として生まれた思想や人間の有り様を捉え、内容を理解する。 ・我が国の伝統文化である和歌の鑑賞の仕方を理解し、特色を捉える。 ・孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・長文の読みに慣れ、それぞれの作品を味わう。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古文単語の知識を定着させるため、古語の小テストを実施する。 ・適宜言語活動を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	言語文化	単位数	2 単位	履修学年	1 年Ⅱ類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。						
	【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像しようとし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。						
使用教材	【教科書】 言語文化（第一学習社） 【副教材】 新明説総合古典文法（尚文出版） 新明説漢文（尚文出版） 核心古文単語351（尚文出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 ・『宇治拾遺物語』『竹取物語』『伊勢物語』 ・古典文法（歴史的仮名遣い、品詞の種類、用言の活用など） 漢文 ・訓読に親しむ（返り点、助字、置き字、再読文字、構造など） ・『戦国策』			<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文章に慣れ、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・作品に表れているものの見方や考えを的確に捉え内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・漢文を訓読するための基礎知識を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れ漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解する。 			
2	古文 ・『枕草子』『土佐日記』『徒然草』 ・古典文法（助動詞、助詞など） 漢文 ・『十八史略』 ・唐詩			<ul style="list-style-type: none"> ・随筆や日記を読んで当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方や考え方を理解し内容や展開を的確に捉える。 ・史伝の舞台となる時代背景を知り、作中に描かれた人物像や論理の巧みさを読み取る。 ・漢詩を鑑賞し当時の人々の思いを理解する。 			
3	古文 ・『平家物語』『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』他 ・古典文法（敬語、和歌の修辞） 漢文 ・『論語』他			<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語を読み、争いを背景として生まれた思想や人間の有り様を捉え、内容を理解する。 ・我が国の伝統文化である和歌の鑑賞の仕方を理解し、特色を捉える。 ・孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・長文の読みに慣れ、それぞれの作品を味わう。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古文単語の知識を定着させるため、古語の小テストを実施する。 ・適宜言語活動を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	言語文化	単位数	2 単位	履修学年	1 年Ⅱ類特選
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。						
	【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像しようとし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。						
使用教材	【教科書】 言語文化（第一学習社） 【副教材】 新明説総合古典文法（尚文出版） 新明説漢文（尚文出版） 核心古文単語351（尚文出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 ・『宇治拾遺物語』『竹取物語』『伊勢物語』 ・古典文法（歴史的仮名遣い、品詞の種類、用言の活用など） 漢文 ・訓読に親しむ（返り点、助字、置き字、再読文字、構造など） ・『戦国策』			<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文章に慣れ、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・作品に表れているものの見方や考えを的確に捉え内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・漢文を訓読するための基礎知識を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れ漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解する。 			
2	古文 ・『枕草子』『土佐日記』『徒然草』 ・古典文法（助動詞、助詞など） 漢文 ・『十八史略』 ・唐詩			<ul style="list-style-type: none"> ・随筆や日記を読んで当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方や考え方を理解し内容や展開を的確に捉える。 ・史伝の舞台となる時代背景を知り、作中に描かれた人物像や論理の巧みさを読み取る。 ・漢詩を鑑賞し当時の人々の思いを理解する。 			
3	古文 ・『平家物語』『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』他 ・古典文法（敬語、和歌の修辞） 漢文 ・『論語』他			<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語を読み、争いを背景として生まれた思想や人間の有り様を捉え、内容を理解する。 ・我が国の伝統文化である和歌の鑑賞の仕方を理解し、特色を捉える。 ・孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・長文の読みに慣れ、それぞれの作品を味わう。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・古文単語の知識を定着させるため、古語の小テストを実施する。 ・適宜言語活動を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史科	科目	歴史総合	単位数	2単位	履修学年	I 年全
到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できているか。 諸資料から、歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義を、多面的・多角的に考察できているか。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想して、それらを説明・検討することができているか。 						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自国や自国の文化だけではなく、他国や他国の文化をも尊重することの大切さについての自覚などを深めているか。 						
使用教材	<p>教科書：『明解歴史総合』（帝国書院） 副教材：明解歴史総合ノート（帝国書院）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1部 歴史の扉			<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象と歴史がつながっていることを理解する。 			
	2部 近代化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> 近代化についてまとめ、近代化の特徴を理解する。 			
1	1章 江戸時代の日本と結び付く世界			<ul style="list-style-type: none"> 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解する。 			
	2章 欧米諸国における近代化			<ul style="list-style-type: none"> 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解する。 			
	3章 近代化の進展と国民国家形成			<ul style="list-style-type: none"> 国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解する。 			
	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国			<ul style="list-style-type: none"> 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解する。 			
	5章 近代化が進む日本と東アジア			<ul style="list-style-type: none"> 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解する。 			
2	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> 国際秩序の変化や大衆化が進展した時期についてまとめ、その特徴を理解する。 			
	1章 第一次世界大戦と日本の対応			<ul style="list-style-type: none"> 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解する。 			
	2章 国際協調と大衆社会の広がり			<ul style="list-style-type: none"> ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解する。 			
	3章 日本の行方と第二次世界大戦			<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解する。 			
2	4章 再出発する世界と日本			<ul style="list-style-type: none"> 冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。 			
	4部 グローバル化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> グローバル化についてメリットとデメリットについてまとめ、その特徴を理解する。 			
	1章 冷戦で揺れる世界と日本			<ul style="list-style-type: none"> 55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解する。 			
	2章 多極化する世界			<ul style="list-style-type: none"> 1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解する。 			
3	3章 グローバル化のなかの世界と日本			<ul style="list-style-type: none"> 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解する。 			
	<p>学習上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図や映像資料などの補助教材を活用して、他科目や他教科との連動を意識しながら学習する。 発問に回答やグループワークにおける発言などを通じて、主体的に学習をすすめる。 現代の国際関係を知るために、新聞・ニュースなどから時事問題に対する関心を深める。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	2 単位	履修学年	I 年全
到達目標	幸福、正義、公正など、人間と社会のあり方についての見方、考え方をはたらかせ、現代社会の諸課題の解決に向け、社会に参画する主体として自立し、他者と協働して考察できる資質を身につける。そのために倫理、社会、政治、法、経済、国際関係の諸課題を知り、それに対する主体的な意見をもてるように努める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができるか。						
	【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを、正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができるか。						
	【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができるか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。						
使用教材	教科書：高等学校公共（第一学習社） 資料集：クローズアップ公共2025（第一学習社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>公共的な空間をつくる私たち 個人の尊厳と自主自立 多様性と共通性 キャリア形成と自己実現 伝統や文化との かわり</p> <p>公共的な空間における人間 環境保護 生命倫理</p> <p>公共的な空間における基本的原理 人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主政治の基本的原理 法の支配 世界の政治体制</p>			<p>青年期の心理を理解し、自我の確立を促しながら自立とは何かを考察させる。 多様性という言葉から、個人の個性とは何か、人間の多様性と共通性とは何かを理解する。 環境倫理や生命倫理を通じて、様々な意見を理解し議論できる力を身につける。 法の支配や民主政治の基本を理解し、政治体制の基本を理解する。</p>			
2	<p>法的な主体となる私たち 生活と法 法と基本的人権 自由と平等と法 と規範 契約と消費者の権利 消費者の権利 裁判所と人権保障 選挙の意義と課題 政治参加と世論形成 国会と立法 内閣と行政の民主化 地方自治</p>			<p>「法とは何か」という観点から、法が私たちの生活にどのような働きをもっているのか、現在の法がどのような課題を持っているのかを考えさせる。そしてその法を制定し、実行していく働きを学び、近い将来の主権者としての自覚を深めさせる。</p>			
3	<p>政治的な主体となる私たち 国家と国際法 国境と領土問題 国際連合 平和主義と安全保障 核兵器の廃絶 今日の国際社会 人種民族問題と地域紛争 国際社会における日本の役割</p>			<p>国際社会における主権国家や国際法の意味を理解し、国際平和を達成していくための手段や組織を学ぶ。 今日の国際社会の課題を学ぶことを通じて、この課題に対する意見や感想を持ち、国際社会における日本の役割、ひいては個人の役割とは何かを考察させる。</p>			
学習上の留意点	<p>一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。 ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。 議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位	履修学年	1年 類進学
到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅰ」(数Ⅰ711) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ			単項式、次数、係数、多項式、項、整式など、式についての用語の意味を理解する。 整式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式などの基本的な計算を理解する。 また、展開公式と関連させて、因数分解の公式を理解する。 自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解し、実数について理解する。また、絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算、根号を含む式の計算、分母の有理化など、基本的な計算を理解する。 数量の間の大小関係を不等式で表し、不等式の意味・性質を理解する。また、1次不等式・連立1次不等式を理解する。 さらに、絶対値記号を含む方程式・不等式では数直線を活用した解法とその意味を理解する。 関数の概念を基本的な用語とともに確認し、関数を表す記号 $y = f(x)$ を理解する。また、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し、そのグラフを利用できるようにする。			

<p>第2節 2次関数の最大・最小</p>	<p>2次関数の最大・最小について理解を深め、定義域に応じた、最大値や最小値を求めることができるようにする。</p>
<p>第3節 2次関数と方程式・不等式</p>	<p>2次方程式の実数解の個数と判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号との関係を理解する。また、2次関数のグラフと x 軸の共有点の位置関係から、2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようにする。さらに、2次不等式を含む連立不等式を解くことができるようにする。</p>
<p>第4章 集合と命題 第1節 集合と命題</p>	<p>命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件などの用語の定義を学び、さらに、命題についての条件の否定とド・モルガンの法則を理解する。また、命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身につける。</p>
<p>第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析</p>	<p>度数分布表、ヒストグラム、度数分布多角形について理解する。平均値、中央値について理解し、データの分析に活用できるようにする。分散、標準偏差について理解し、データの分析に活用できるようにする。また、散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようにする。相関係数について理解し、データの分析に活用できるようにする。</p>
<p>第2節 統計的探究プロセス</p>	<p>目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、事象の特徴を表現できるようにする。また、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、判断したり、批判的に考察したりする力を身につける。</p>
<p>第3章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比</p>	<p>三角比としての正弦・余弦・正接の意味を理解し、30°、45°、60°の正弦・余弦・正接の値を求めることができる。また、三角比の表を利用できるようにする。三角比の相互関係について理解する。</p>
<p>第2節 三角比の拡張</p>	<p>鈍角まで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の場合との違いを確認する。また、0°、90°、180°の場合についての三角比も理解する。さらに、直線の傾きと正接の関係について理解する。三角比の相互関係について理解を深める。</p>
<p>第3節 正弦定理と余弦定理</p>	<p>正弦定理や余弦定理を理解し、三角形の辺と角の間の関係について理解を深める。また、既知の辺や角から残りの辺や角を求められることを理解する。</p>

	<p>第4節 図形の計量</p>	<p>条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積、円に内接する四角形の面積を求めることを理解する。また、三角比を空間図形の計量に活用できることを理解する。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位	履修学年	Ⅰ年Ⅱ類進学
到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅰ」（数Ⅰ711） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ			単項式、次数、係数、多項式、項、整式など、式についての用語の意味を理解する。 整式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式などの基本的な計算を理解する。また、展開公式と関連させて、因数分解の公式を理解する。 自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解し、実数について理解する。また、絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算、根号を含む式の計算、分母の有理化など、基本的な計算を理解する。 数量の間の大小関係を不等式で表し、不等式の意味・性質を理解する。また、1次不等式・連立1次不等式を理解する。 さらに、絶対値記号を含む方程式・不等式では数直線を活用した解法とその意味を理解する。 関数の概念を基本的な用語とともに確認し、関数を表す記号 $y = f(x)$ を理解する。また、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し、そのグラフを利用できるようにする。			

	<p>第2節 2次関数の最大・最小</p>	<p>2次関数の最大・最小について理解を深め、定義域に応じた、最大値や最小値を求めることができるようにする。</p>
<p>2</p>	<p>第3節 2次関数と方程式・不等式</p>	<p>2次方程式の実数解の個数と判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号との関係を理解する。また、2次関数のグラフと x 軸の共有点の位置関係から、2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようにする。さらに、2次不等式を含む連立不等式を解くことができるようにする。</p>
	<p>第4章 集合と命題 第1節 集合と命題</p>	<p>命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件などの用語の定義を学び、さらに、命題についての条件の否定とド・モルガンの法則を理解する。また、命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身につける。</p>
	<p>第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析</p>	<p>度数分布表、ヒストグラム、度数分布多角形について理解する。平均値、中央値について理解し、データの分析に活用できるようにする。分散、標準偏差について理解し、データの分析に活用できるようにする。また、散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようにする。相関係数について理解し、データの分析に活用できるようにする。</p>
	<p>第2節 統計的探究プロセス</p>	<p>目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、事象の特徴を表現できるようにする。また、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、判断したり、批判的に考察したりする力を身につける。</p>
	<p>第3章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比</p>	<p>三角比としての正弦・余弦・正接の意味を理解し、30°、45°、60°の正弦・余弦・正接の値を求めることができる。また、三角比の表を利用できるようにする。三角比の相互関係について理解する。</p>
	<p>第2節 三角比の拡張</p>	<p>鈍角まで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の場合との違いを確認する。また、0°、90°、180°の場合についての三角比も理解する。さらに、直線の傾きと正接の関係について理解する。三角比の相互関係について理解を深める。</p>
<p>第3節 正弦定理と余弦定理</p>	<p>正弦定理や余弦定理を理解し、三角形の辺と角の間の関係について理解を深める。また、既知の辺や角から残りの辺や角を求められることを理解する。</p>	

	<p>第4節 図形の計量</p>	<p>条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積、円に内接する四角形の面積を求めることを理解する。また、三角比を空間図形の計量に活用できることを理解する。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位	履修学年	Ⅰ年Ⅱ類特選
到達目標	<p>数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、応用問題にもふれ、発展的な学習を行い、入試問題にも対応できる力を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅰ」（数Ⅰ711） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 数と式 第1節 多項式</p> <p>第2節 実数</p> <p>第3節 1次不等式</p>			<p>単項式、次数、係数、多項式、項、整式など、式についての用語の意味を理解する。 整式の加法・減法、指数法則、整式の乗法、多項式の乗法公式などの基本的な計算を理解する。 また、展開公式と関連させて、因数分解の公式を理解する。</p> <p>自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解し、実数について理解する。また、絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算、根号を含む式の計算、分母の有理化など、基本的な計算を理解する。</p> <p>数量の間の大小関係を不等式で表し、不等式の意味・性質を理解する。また、1次不等式・連立1次不等式を理解する。 さらに、絶対値記号を含む方程式・不等式では数直線を活用した解法とその意味を理解する。</p>			
	<p>第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ</p>			<p>関数の概念を基本的な用語とともに確認し、関数を表す記号 $y = f(x)$ を理解する。また、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し、そのグラフを利用できるようにする。</p>			

<p>第2節 2次関数の最大・最小</p>	<p>2次関数の最大・最小について理解を深め、定義域に応じた、最大値や最小値を求めることができるようにする。</p>
<p>第3節 2次関数と方程式・不等式</p> <p>第4章 集合と命題 第1節 集合と命題</p> <p>第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析</p> <p>第2節 統計的探究プロセス</p> <p>第3章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比</p> <p>第2節 三角比の拡張</p> <p>第3節 正弦定理と余弦定理</p>	<p>2次方程式の実数解の個数と判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号との関係を理解する。また、2次関数のグラフと x 軸の共有点の位置関係から、2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようにする。さらに、2次不等式を含む連立不等式を解くことができるようにする。</p> <p>命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件などの用語の定義を学び、さらに、命題についての条件の否定とド・モルガンの法則を理解する。また、命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身につける。</p> <p>度数分布表、ヒストグラム、度数分布多角形について理解する。平均値、中央値について理解し、データの分析に活用できるようにする。分散、標準偏差について理解し、データの分析に活用できるようにする。また、散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようにする。相関係数について理解し、データの分析に活用できるようにする。</p> <p>目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、事象の特徴を表現できるようにする。また、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、判断したり、批判的に考察したりする力を身につける。</p> <p>三角比としての正弦・余弦・正接の意味を理解し、30°、45°、60°の正弦・余弦・正接の値を求めることができる。また、三角比の表を利用できるようにする。三角比の相互関係について理解する。</p> <p>鈍角まで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の場合との違いを確認する。また、0°、90°、180°の場合についての三角比も理解する。さらに、直線の傾きと正接の関係について理解する。三角比の相互関係について理解を深める。</p> <p>正弦定理や余弦定理を理解し、三角形の辺と角の間の関係について理解を深める。また、既知の辺や角から残りの辺や角を求められることを理解する。</p>

	<p>第4節 図形の計量</p>	<p>条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積、円に内接する四角形の面積を求めることを理解する。また、三角比を空間図形の計量に活用できることを理解する。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	1 単位	履修学年	1 年 類進学
到達目標	<p>数学Ⅰの三角比の学習の延長として、三角関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。それぞれの分野について基本事項の理解を目標にし、数学の有用性を認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館 「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として深進数学Ⅰの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
3	<p>第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数</p> <p>第2節 三角関数の加法定理</p>			<p>弧度法の考え方を理解し、角の大きさを弧度法で表現できるようにする。また、三角関数の周期性について学び、簡単な三角関数のグラフが描けるようにする。さらに、三角関数の相互関係の公式を理解し、グラフや公式を利用して三角方程式や三角不等式が解けるようにする。</p> <p>三角関数の加法定理を理解し、それを応用して、倍角、半角、積と和の変換公式、合成の式を使えるようにする。</p>			
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	1単位	履修学年	1年Ⅱ類進学
到達目標	<p>数学Ⅰの三角比の学習の延長として、三角関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。それぞれの分野について基本事項の理解を目標にし、数学の有用性を認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館 「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として深進数学Ⅰの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
3	<p>第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数</p> <p>第2節 三角関数の加法定理</p>			<p>弧度法の考え方を理解し、角の大きさを弧度法で表現できるようにする。また、三角関数の周期性について学び、簡単な三角関数のグラフが描けるようにする。さらに、三角関数の相互関係の公式を理解し、グラフや公式を利用して三角方程式や三角不等式が解けるようにする。</p> <p>三角関数の加法定理を理解し、それを応用して、倍角、半角、積と和の変換公式、合成の式を使うようにする。</p>			
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	1 単位	履修学年	1 年Ⅱ 類特選
到達目標	<p>三角関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、応用問題にもふれ、発展的な学習を行い、入試問題にも対応できる力を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館 「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）」 補助教材として深進数学Ⅰの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
3	<p>第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数</p> <p>第2節 三角関数の加法定理</p>			<p>弧度法の考え方を理解し、角の大きさを弧度法で表現できるようにする。また、三角関数の周期性について学び、簡単な三角関数のグラフが描けるようにする。さらに、三角関数の相互関係の公式を理解し、グラフや公式を利用して三角方程式や三角不等式が解けるようにする。</p> <p>三角関数の加法定理を理解し、それを応用して、倍角、半角、積と和の変換公式、合成の式を使えるようにする。</p>			
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp のB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学A	単位数	2単位	履修学年	1年 類進学
到達目標	<p>場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館 「深進数学A」(数A 711) 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅰの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 場合の数と確率 序 節 集合 第1節 場合の数			<p>図表示などを用いて、集合の表し方を理解する。また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場面なのかを理解し、樹形図も利用しながらその総数を求めることができるようにする。</p>			
	第2節 順列・組合せ			<p>順列の意味を理解し、その総数 P_r や階乗の計算ができ、円順列や重複順列の求め方を理解する。また、組合せの意味を理解し、その総数 C_r の計算ができ、組合せの考え方をを用いた応用問題を理解する。</p>			
	第3節 確率とその性質			<p>試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を理解する。</p>			
	第4節 いろいろな確率			<p>独立な試行の確率について、具体例を通してその意味を理解する。また、反復試行の確率を理解する。条件付き確率と確率の乗法定理を理解し、具体的な事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。</p>			

2	<p>第5節 期待値</p> <p>第2章 図形の性質</p> <p>第1節 三角形の性質</p> <p>第2節 円の性質</p> <p>第3節 作図</p> <p>第4節 空間図形</p>	<p>期待値の定義、意味について具体例を通して理解する。</p> <p>三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比の定理を理解する。 三角形の重心・外心・垂心・内心の存在を理解する。また、外接円、内接円の関係を理解する。チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、活用できるようにする。</p> <p>円の基本性質と円周角の定理を復習し、円に内接する四角形の定理と四角形の内接条件の定理を理解する。また、図形の性質を論理的に考察し、的確に表現する能力を身につける。さらに、接線と弦のつくる角の定理、方べきの定理、2つの円の位置関係を理解する。</p> <p>中学校において学習した基本的な作図や、平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに、平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できるようにする。</p> <p>中学校において学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ、三垂線の定理などを扱い、図形の性質を論理的に考察することができるようにする。また、オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。</p>
3	<p>第3章 数学と人間の活動</p> <p>第1節 数学と歴史・文化</p> <p>第2節 数学とゲーム・パズル</p>	<p>位取り記数法や空間図形の応用などから、数学が人間の活動に関わって作られ発展してきたことやその方法を理解するとともに、数学と文化とのかかわりについての認識を深める。</p> <p>石取りゲームやマスの敷き詰めなどを通して、法則性や規則性を数学的に考察できるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学A	単位数	3単位	履修学年	1年Ⅱ類進学
到達目標	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館 「深進数学A」(数A711) 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅰ、深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いる。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 場合の数と確率 序 節 集合 第1節 場合の数			図表示などを用いて、集合の表し方を理解する。また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場面なのかを理解し、樹形図も利用しながらその総数を求めることができるようにする。			
	第2節 順列・組合せ			順列の意味を理解し、その総数 nP_r や階乗の計算ができ、円順列や重複順列の求め方を理解する。また、組合せの意味を理解し、その総数 nCr の計算ができ、組合せの考え方をを用いた応用問題を理解する。			
	第3節 確率とその性質			試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を理解する。			
	第4節 いろいろな確率			独立な試行の確率について、具体例を通してその意味を理解する。また、反復試行の確率を理解する。 条件付き確率と確率の乗法定理を理解し、具体的な事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。			
	第5節 期待値			期待値の定義、意味について具体例を通して理解する。			

2	<p>第2章 図形の性質</p> <p>第1節 三角形の性質</p> <p>第2節 円の性質</p> <p>第3節 作図</p> <p>第4節 空間図形</p>	<p>三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比の定理を理解する。 三角形の重心・外心・垂心・内心の存在を理解する。また、外接円、内接円の関係を理解する。 チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、活用できるようにする。</p> <p>円の基本性質と円周角の定理を復習し、円に内接する四角形の定理と四角形の内接条件の定理を理解する。また、図形の性質を論理的に考察し、的確に表現する能力を身につける。さらに、接線と弦のつくる角の定理、方べきの定理、2つの円の位置関係を理解する。</p> <p>中学校において学習した基本的な作図や、平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに、平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できるようにする。</p> <p>中学校において学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ、三垂線の定理などを扱い、図形の性質を論理的に考察することができるようにする。また、オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。</p>
3	<p>第3章 数学と人間の活動</p> <p>第1節 数学と歴史・文化</p> <p>第2節 数学とゲーム・パズル</p> <p>場合の数と確率についての発展的内容 (多項式の乗法・除法と分数式)</p>	<p>位取り記数法や空間図形の応用などから、数学が人間の活動に関わって作られ発展してきたことやその方法を理解するとともに、数学と文化とのかかわりについての認識を深める。</p> <p>石取りゲームやマスの敷き詰めなどを通して、法則性や規則性を数学的に考察できるようにする。</p> <p>既習内容である整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。そのうえで、二項定理を場合の数と関連付けて学び、式の展開についての理解を深める。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探求編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き留め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学A	単位数	3単位	履修学年	1年Ⅱ類特選
到達目標	<p>場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、応用問題にもふれ、発展的な学習を行い、入試問題にも対応できる力を育てる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身につけているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館 「深進数学A」(数A711) 傍用問題集 啓林館 「演習思考編 Grasp 数学Ⅰ+A」 参考書 啓林館 「Focus Gold Smart 2nd Edition 数学Ⅰ+A」 補助教材として深進数学Ⅰ、深進数学Ⅱの教科書、傍用問題集、参考書を用いる。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 場合の数と確率 序節 集合 第1節 場合の数			図表示などを用いて、集合の表し方を理解する。また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場面なのかを理解し、樹形図も利用しながらその総数を求めることができるようにする。			
	第2節 順列・組合せ			順列の意味を理解し、その総数 $n!$ や階乗の計算ができ、円順列や重複順列の求め方を理解する。また、組合せの意味を理解し、その総数 C_n の計算ができ、組合せの考え方をを用いた応用問題を理解する。			
	第3節 確率とその性質			試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を理解する。			
	第4節 いろいろな確率			独立な試行の確率について、具体例を通してその意味を理解する。また、反復試行の確率を理解する。 条件付き確率と確率の乗法定理を理解し、具体的な事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。			
	第5節 期待値			期待値の定義、意味について具体例を通して理解する。			

2	<p>第2章 図形の性質</p> <p>第1節 三角形の性質</p> <p>第2節 円の性質</p> <p>第3節 作図</p> <p>第4節 空間図形</p>	<p>三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比の定理を理解する。 三角形の重心・外心・垂心・内心の存在を理解する。また、外接円、内接円の関係を理解する。 チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、活用できるようにする。</p> <p>円の基本性質と円周角の定理を復習し、円に内接する四角形の定理と四角形の内接条件の定理を理解する。また、図形の性質を論理的に考察し、的確に表現する能力を身につける。さらに、接線と弦のつくる角の定理、方べきの定理、2つの円の位置関係を理解する。</p> <p>中学校において学習した基本的な作図や、平行四辺形の成立条件や三角形と比の性質をもとに、平行な直線や線分の内分点・外分点などを作図できるようにする。</p> <p>中学校において学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ、三垂線の定理などを扱い、図形の性質を論理的に考察することができるようにする。また、オイラーの多面体定理などの多面体の基本的な性質を理解する。</p>
3	<p>第3章 数学と人間の活動</p> <p>第1節 数学と歴史・文化</p> <p>第2節 数学とゲーム・パズル</p> <p>場合の数と確率についての発展的内容 (多項式の乗法・除法と分数式)</p>	<p>位取り記数法や空間図形の応用などから、数学が人間の活動に関わって作られ発展してきたことやその方法を理解するとともに、数学と文化とのかかわりについての認識を深める。</p> <p>石取りゲームやマスの敷き詰めなどを通して、法則性や規則性を数学的に考察できるようにする。</p> <p>既習内容である整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。そのうえで、二項定理を場合の数と関連付けて学び、式の展開についての理解を深める。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探求編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き留め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	理 科	科目	物理基礎	単位数	2 単位	履修学年	1 年 類
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物体に働く力が図示できる。 ニュートンの運動方程式を理解し、式を立てられる。 力学的エネルギー保存則を理解し、式を立てられる。 物理学が、日常生活においてどのように関わっているのか考え、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 物理学の基本的な概念を理解し、身近な現象を物理的に解釈する能力を身につける。 物理学における原理や法則を理解し、関係式がどのように導かれるのか習得する。 論理的思考力や計算力を養い、基本的な問題を解く力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。						
使用教材	教科書：東京書籍 深める物理基礎 副教材：実教出版 高校物理基礎 サブノート 新課程版						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 速度, 加速度, 落体の運動 第2章 運動の法則 力とそのはたらき, 力のつりあい, 運動の法則, 摩擦を受ける運動, 液体や気体から受ける力			<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解する。 等加速度直線運動について学び、その実例として、重力のみを受けた物体の運動を習得する。 物体にはたらく様々な力について学び、力を的確に作図する。 力のつりあいを理解し、力の合成と分解を習得する。 運動方程式の立て方を習得する。 摩擦力と垂直抗力の関係、物体が受ける圧力や浮力について学習し、その扱い方を習得する。 			
2	第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 熱と物質の状態, 熱と仕事, 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 波と媒質の運動, 波の伝わり方			<ul style="list-style-type: none"> 物理学における仕事について理解する。 運動エネルギーと位置エネルギーの意味, 定義を習得する。 重力を実例として扱い、力学的エネルギー保存則について理解を深める。 熱容量や比熱を用いて熱量を求める。 熱の移動について理解し、熱量の保存を式で表す。 波長, 振幅, 周期, 振動数について理解する。 縦波と横波の違いを理解する。 重ね合わせの原理を習得し、合成波を作図する。 			
3	第2章 音 音の性質, 発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気 電気の性質, 電流と電気抵抗, 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 電流と磁場, 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 エネルギーの移り変わり, エネルギー資源と発電			<ul style="list-style-type: none"> 音の大小, 音の高低を学ぶ。 弦の振動や気柱の振動について理解する。 オームの法則を習得する。 抵抗の接続方法の違いを理解し、ジュール熱を学ぶ。 交流の仕組みを学び、変圧器の原理を理解する。 電磁波の種類と性質について学ぶ。 日常生活においてエネルギーをどのように活用しているか学ぶ。 エネルギーを利用する段階で効率的な方法があることを理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で起こる様々な現象に興味を持ち、その法則性について考える態度を養う。 疑問に思ったことを自分で調べ、理解しようという態度を養う。 計算問題や問題演習を通して、学んだことを復習し定着させる。 						

科目の年間授業計画 (シラバス)

教科	理 科	科目	物理基礎	単位数	2 単位	履修学年	1 年 II 類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物理学が、日常生活においてどのように関わっているのか考え、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 物理学の基本的な概念を理解し、身近な現象を物理的に解釈する能力を身につける。 物理学における原理や法則を理解し、関係式がどのように導かれるのか習得する。 論理的思考力や計算力を養い、基本的な問題を解く力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。						
使用教材	教科書：東京書籍 深める物理基礎 副教材：検討中（4月に購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 速度，加速度，落体の運動 第2章 運動の法則 力とそのはたらき，力のつりあい， 運動の法則，摩擦を受ける運動， 液体や気体から受ける力			<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の基本的な表し方について，直線運動を中心に理解する。 等加速度直線運動について学び，その実例として，重力のみを受けた物体の運動を習得する。 物体にはたらく様々な力について学び，各力を的確に作図する。 力のつりあいを理解し，力の合成と分解を習得する。 運動方程式の立て方を習得し，物体の運動における物理量を導出する。 摩擦力と垂直抗力の関係，物体が受ける圧力や浮力について学習し，その扱い方を習得する。 			
	2	第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事，運動エネルギー，位置エネルギー， 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 熱と物質の状態，熱と仕事， 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 波と媒質の運動，波の伝わり方			<ul style="list-style-type: none"> 物理学における仕事について理解する。 運動エネルギーと位置エネルギーの意味，定義を習得する。 重力を実例として扱い，力学的エネルギー保存則について理解を深める。 熱容量や比熱を用いて熱量を求める。 熱の移動について理解し，熱量の保存を関係式で表す。 気体が行う仕事，内部エネルギーについて学び，熱力学第一法則を習得する。 波長，振幅，周期，振動数について理解する。 縦波と横波の違いを理解する。 重ね合わせの原理を習得し，合成波を作図する。 		
3		第2章 音 音の性質，発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気 電気の性質，電流と電気抵抗， 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 電流と磁場，交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 エネルギーの移り変わり， エネルギー資源と発電			<ul style="list-style-type: none"> 音の大小，音の高低を学ぶ。 弦の振動や気柱の振動について理解する。 原子の構造から電子に注目し，電気現象との関連性を理解する。 オームの法則を習得する。 抵抗の接続方法の違いを理解し，ジュール熱を学ぶ。 交流の仕組みを学び，変圧器の原理を理解する。 電磁波の種類と性質について学ぶ。 日常生活においてエネルギーをどのように活用しているか学ぶ。 エネルギーを利用する段階で効率的な方法があることを理解する。 		
	学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で起こる様々な現象に興味を持ち，その法則性について考える態度を養う。 疑問に思ったことを自分で調べ，理解しようという態度を養う。 計算問題や問題演習を通して，学んだことを復習し定着させる。 					

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物理基礎	単位数	2 単位	履修学年	1 年 II 類特選
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学が、日常生活においてどのように関わっているのか考え、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 ・物理学の基本的な概念を理解し、身近な現象を物理的に解釈する能力を身につける。 ・物理学における原理や法則を理解し、関係式がどのように導かれるのか習得する。 ・論理的思考力や計算力を養い、基本的な問題を解く力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。						
使用教材	教科書：東京書籍 深める物理基礎 副教材：検討中（4月に購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 速度，加速度，落体の運動 第2章 運動の法則 力とそのはたらき，力のつりあい， 運動の法則，摩擦を受ける運動， 液体や気体から受ける力			<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動の基本的な表し方について，直線運動を中心に理解する。 ・等加速度直線運動について学び，その実例として，重力のみを受けた物体の運動を習得する。 ・物体にはたらく様々な力について学び，各力を的確に作図する。 ・力のつりあいを理解し，力の合成と分解を習得する。 ・運動方程式の立て方を習得し，物体の運動における物理量を導出する。 ・摩擦力と垂直抗力の関係，物体が受ける圧力や浮力について学習し，その扱い方を習得する。 			
	2	第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事，運動エネルギー，位置エネルギー， 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 熱と物質の状態，熱と仕事， 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 波と媒質の運動，波の伝わり方			<ul style="list-style-type: none"> ・物理学における仕事について理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーの意味，定義を習得する。 ・重力を実例として扱い，力学的エネルギー保存則について理解を深める。 ・熱容量や比熱を用いて熱量を求める。 ・熱の移動について理解し，熱量の保存を関係式で表す。 ・気体が行う仕事，内部エネルギーについて学び，熱力学第一法則を習得する。 ・波長，振幅，周期，振動数について理解する。 ・縦波と横波の違いを理解する。 ・重ね合わせの原理を習得し，合成波を作図する。 		
3		第2章 音 音の性質，発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気 電気の性質，電流と電気抵抗， 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 電流と磁場，交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 エネルギーの移り変わり， エネルギー資源と発電			<ul style="list-style-type: none"> ・音の大小，音の高低を学ぶ。 ・弦の振動や気柱の振動について理解する。 ・原子の構造から電子に注目し，電気現象との関連性を理解する。 ・オームの法則を習得する。 ・抵抗の接続方法の違いを理解し，ジュール熱を学ぶ。 ・交流の仕組みを学び，変圧器の原理を理解する。 ・電磁波の種類と性質について学ぶ。 ・日常生活においてエネルギーをどのように活用しているか学ぶ。 ・エネルギーを利用する段階で効率的な方法があることを理解する。 		
	学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で起こる様々な現象に興味を持ち，その法則性について考える態度を養う。 ・疑問に思ったことを自分で調べ，理解しようという態度を養う。 ・計算問題や問題演習を通して，学んだことを復習し定着させる。 					

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2単位	履修学年	I年I類
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書	実教出版	新訂版	生物基礎			
	副教材	啓林館	新編	センサー生物基礎（デジタル）			
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。 生物が生命活動に必要なエネルギーをどのように獲得しているか理解する。 生体内でのエネルギーの受け渡しのしくみを理解する。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 DNAと染色体の関係を理解する。 ゲノムのしくみを説明できる。 DNAの構造的な特徴を説明できる。 			
2	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基の相補性を理解し、複製と分配のしくみについて意義と重要性を説明できる。 生物の特徴がタンパク質の違いによって決まることを理解する。 遺伝情報をもとにタンパク質を合成する過程を説明できる。 体内環境の意味とその役割を理解できる。 肝臓と腎臓による体液の調節を説明できる。 体内での情報の伝達がからだの調節に関係していることを見いだして理解できる。 神経系の構成と自律神経系の働きを説明できる。 ホルモン分泌の調節のしくみを説明できる。 免疫応答の概要と、免疫に関わる細胞や器官を説明できる。 体内に侵入した異物に対するの防御機構を理解する。 			
3	4章 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム 3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 単元別に問題演習を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2単位	履修学年	I年II類(進学)
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書	実教出版	新訂版	生物基礎			
	副教材	啓林館	新編	センサー生物基礎（デジタル）			
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。 生物が生命活動に必要なエネルギーをどのように獲得しているか理解する。 生体内でのエネルギーの受け渡しのしくみを理解する。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 DNAと染色体の関係を理解する。 ゲノムのしくみを説明できる。 DNAの構造的な特徴を説明できる。 			
2	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基の相補性を理解し、複製と分配のしくみについて意義と重要性を説明できる。 生物の特徴がタンパク質の違いによって決まることを理解する。 遺伝情報をもとにタンパク質を合成する過程を説明できる。 体内環境の意味とその役割を理解できる。 肝臓と腎臓による体液の調節を説明できる。 体内での情報の伝達がからだの調節に関係していることを見いだして理解できる。 神経系の構成と自律神経系の働きを説明できる。 ホルモン分泌の調節のしくみを説明できる。 免疫応答の概要と、免疫に関わる細胞や器官を説明できる。 体内に侵入した異物に対するの防御機構を理解する。 			
3	4章 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム 3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 単元別に問題演習を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	I 年 II 類 (特選)
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物の多様性と共通性、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。 体内環境の維持及び免疫と健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 副教材	実教出版 啓林館	新訂版 新編	生物基礎 センサー生物基礎（デジタル）			
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA			<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。 生物が生命活動に必要なエネルギーをどのように獲得しているか理解する。 生体内でのエネルギーの受け渡しのしくみを理解する。 酵素のはたらき、光合成（同化）と呼吸（異化）の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 DNAと染色体の関係を理解する。 ゲノムのしくみを説明できる。 DNAの構造的な特徴を説明できる。 			
2	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基の相補性を理解し、複製と分配のしくみについて意義と重要性を説明できる。 生物の特徴がタンパク質の違いによって決まることを理解する。 遺伝情報をもとにタンパク質を合成する過程を説明できる。 体内環境の意味とその役割を理解できる。 肝臓と腎臓による体液の調節を説明できる。 体内での情報の伝達がからだの調節に関係していることを見いだして理解できる。 神経系の構成と自律神経系の働きを説明できる。 ホルモン分泌の調節のしくみを説明できる。 免疫応答の概要と、免疫に関わる細胞や器官を説明できる。 体内に侵入した異物に対するの防御機構を理解する。 			
3	4章 1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム 3節 生態系と物質循環 4節 生態系のバランスと保全			<ul style="list-style-type: none"> 植生とその構造について学習する。 植物の遷移のしくみとその種類を学習する。 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、バイオームの分布は主に気温と降水量で決まることを学習する。 生態系の成り立ちと生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 生態系はバランスが保たれており、人類はそのバランスに大きな影響を与えていることを学習する。 生物は多様であるが、多様な生物にも細胞構造をもつなどの共通性があること、共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解させる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 単元別に問題演習を取り入れる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男子）	単位数	3単位	履修学年	I年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等および社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】						
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理性、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人および社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに技能を身につけている。 						
	【思考・判断・表現】						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人および社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】						
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わう事ができるよう、運動の合理的かつ計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2025」 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
1	体づくり運動（集団行動等）	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 					
	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールに自主的に取り組ませるとともにフェアプレイを大切にさせる。 ・ネット型球技の特徴を理解し仲間とともに課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫して取り組ませる。 					
	柔道（通年で週1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の伝統的な考え方や礼法・受け身等を理解させるとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるよう指導する。 					
	体育理論（1・2）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について学ばせる。 					
2	陸上競技 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、それぞれの技術や体力の高め方などを学ばせる。また、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 					
	体育理論（3・4）	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピックの意義について学ばせるとともにスポーツが経済に及ぼす効果を理解させる。 					
3	ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、良い演技を讃え合い、互いの課題を発見し、合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者に伝えさせる。 					
	体育理論（5・6）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの高潔さとドーピングについて考えさせる。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にす。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（女子）	単位数	3単位	履修学年	I年	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等および社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 							
評価の観点・評価基準	【知識・技能】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理性、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人および社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに技能を身につけている。 							
	【思考・判断・表現】							
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人および社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 							
	【主体的に学習に取り組む態度】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わう事ができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 							
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2025」 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）							
1	体づくり運動（集団行動等） バレーボール 体育理論（1・2）	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 ・バレーボールに自主的に取り組ませるとともにフェアプレイを大切にさせる。 ・ネット型球技の特徴を理解し仲間とともに課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫して取り組ませる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について学ばせる。 						
2	陸上競技 器械運動 体育理論（3・4）	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、それぞれ技術や体力の高め方などを学ばせる。また、自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 ・オリンピック、パラリンピックの意義について学ばせるとともにスポーツが経済に及ぼす効果を理解させる。 						
3	ダンス 体育理論（5・6）	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、良い演技を讃え合い、互いの課題を発見し、合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者に伝えさせる。 ・スポーツの高潔さとドーピングについて考えさせる。 						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 							

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	履修学年	I 年
到達目標	<p>・ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できるようにする。</p> <p>・心身の健康の保持増進を図るための思考力、判断力、表現力を養い、健康を大切に、明るく豊かに生活する態度などの資質や能力を育成する。</p> <p>・安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当や危険予測、危機回避を表現できるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。						
	【思考・判断・表現】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。						
使用教材	「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
1	1 単元 現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康			<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立たせている要因を理解し、わが国の健康問題について考える。 ・生活習慣病やがんの種類や原因について理解し、予防や治療法、緩和ケア、社会的な対策が説明できるようにする。 ・運動、食事、休養・睡眠の重要性を理解させる。 ・喫煙や飲酒による健康への影響、個人や社会の対策について理解する。 			
2	11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意志決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり			<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用に対する正しい知識を理解させる。 ・精神疾患について、発病の要因や現代社会における課題を理解し、予防から回復まで適切に対処できる力をつけさせる。 ・感染症や性感染症・エイズの実態について学ぶとともに予防対策についても理解させる。 			
3	2 単元 安全な社会生活 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法			<ul style="list-style-type: none"> ・社会、家庭生活での事故の発生要因を理解し、安全確保のための行動や必要な環境整備について知る。 ・交通事故防止における取り組み、交通社会で必要とされる資質と責任について理解させる。 ・応急手当の手順や方法を理解させる。また、自らすすんで、適切に対処できるようにさせる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健ノート、プリントを活用し、生活習慣と自らの健康について考える。 ・DVD（動画教材）・パワーポイント等を利用し、理解を深める。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2単位	履修学年	I年		
到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、知識・技能を身に付ける。また、多様な音楽文化についての理解を深める。								
評価の観点・基準	<p>【知識・技能】・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、表現しているか。 ・多様な音楽や音楽文化に対して理解を深めているか。</p> <p>【思考・判断・表現】・音楽の要素等を知覚し、それらの働きを感受し、その関わりを考え、どのように表現するかを思考し、その音楽のよさや美しさを味わいながら、鑑賞・表現しているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・様々な音楽に興味・関心を持ち、意欲的・主体的に音楽活動を行っているか</p>								
使用教材	教育出版「音楽Ⅰ Tutti+」 カワイ出版「高校生のための音楽ノート」、自作プリント								
学期	学習内容			学習のねらい					
1学期	歌唱	「少年時代」「サンタ・ルチア」 「Caro mio ben」他		鑑賞	「青少年の管弦楽入門」 「交響曲第5番作品67」他		楽典	「大譜表と音名」「音符と休符」	
	実技・筆記試験			イタリア歌曲の発声法を基本的な発声法として学び、イタリア音楽について理解を深める。また、曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 楽曲の文化的・歴史的背景や、表現者の特徴を理解して鑑賞する。 学習内容の確認を行う。					
2学期	歌唱	「野ばら」「おおシャンゼリゼ」他		鑑賞	「交響曲第9番」「惑星」 「ボレロ」「蘭陵王」他		器楽	「箏」	
	楽典	「拍子」「記号・用語」		各国の音楽について学習し、歌唱・鑑賞・器楽を通して、理解を深める。また、日本の伝統音楽についても、流れを理解し、日本の音楽について理解を深める。					
	実技・筆記試験			学習内容の確認を行う。					
3学期	楽典	「音程」「調号と主音」		音楽史	「古代からロマン派まで」		鑑賞	「The sound of music」	
	筆記試験			音を音楽へと構成することを学習するとともに、作品を記録する方法を工夫する。 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受し、表現を工夫する。					
	学習上の留意点				学習内容の確認を行う。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を「自ら学ぶ」態度と方法を身に付けるため、積極的に取り組む。 ・自分の知っている曲や興味のあるジャンルを元に、その他の曲とのかかわりを見つける。 ・音楽と文化歴史は密接に関わっているので、総合的な知識と技能を身につける。 								

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	履修学年	I 年
到達目標	美術の創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 * 対象や事象を捉える造形的な視点の知識について理解を深めているか。 * 制作活動において必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表しているか。						
	【思考・判断・表現】 * 自ら主題を生成し、表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 * 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組めたか。 * 準備から片付けまで主体的に取り組むことができたか。						
使用教材	* 教科書 * スケッチブック(購買で購入可)、絵の具(水彩)などは各自用意する(既に持っている物を使用しても良い)。学校での一括購入はしない。(詳しくは最初の美術の授業時に説明する。)						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	○絵画 素描、人物画、静物画、構想画、風景画、抽象画等の中からいずれかの課題を指定する。			* 対象の良さや美しさを感じるとともに、それらを表現するための技能を高める。 * 自ら意図したものを効果的に表現するための構成能力を高める。 * 色や形それ自体のおもしろさや美しさに気付き、それらを制作に生かそうとする態度を養う。			
2	○デザイン レタリングやイラスト等を含めたデザイン、平面又は立体の構成デザイン等の中から、制作課題を指定する。 ○鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用			* 主題や自分の意図を的確に伝えるために創意工夫する態度を養う。 * 視覚的な伝達効果を考えた表現を考える。 * 作者の心情や意図を自分なりに推し量り、表現の多様性や作品の良さに気付き、それらを味わう心を養う。			
3	○課題選択作品 平面、立体のいずれか、又は両方(指定したテーマについて、計画的に制作) * 平面作品…絵の具、色鉛筆、鉛筆、ペンなど、身近にある画材を用いて制作する。 * 立体作品…紙、紙粘土など、身近な材料や廃品を利用して制作する。 ○鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用			* 興味、関心、意欲、能力に応じて自らの課題を見つけ、制作に臨む態度を養う。 * 材料や用具の特性を理解し、多様な技法を身につける。 * 材料を生かし、独創的な表現をしようとする態度を養う。 * 自他の作品を通して、今後の生活や制作活動に生かそうとする態度を養う。			
学習上の留意点	* 制作は授業時間内に終わることを原則とするが、希望者には放課後美術室での制作を許可する事もある。 * 準備、制作、片づけともに主体的に取り組むよう指導する。 * 興味、関心、意欲、能力には個人差があるので、各講座の様子によって課題を多少変更することがある。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	2単位	履修学年	1年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での書写を基本に、古典に基づく表現力・鑑賞力を身につける。 ・書道の幅広い活動（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）を通し表現力を身につけ、書の美しさを感じとる鑑賞力を育てる。 ・書を愛好する心情を育てる。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 書の表現や、基礎的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書することができたか。						
	【思考・判断・表現】 学習した古典の特徴を汲み取り、意図に応じて表現を工夫できたか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組むことができたか。						
使用教材	書道Ⅰ（書Ⅰ704）教育出版・自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ○書の芸術性 ○書体の変遷 ○楷書の学習 			必要な用具・用材について、理解し、丁寧に扱う態度を養う。 腕の構え方、筆の持ち方、書く姿勢について理解する。 基本的な筆使いを確認する。 様々な用筆・運筆による表現を工夫する。 漢字の書体を学習する。 楷書にも様々な書風があることを理解し、鑑賞し、臨書する。			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○行書の学習 ○篆刻・刻字の学習 			行書の特徴を理解し、基本用筆の書き方を練習し、鑑賞し、臨書する。 学習した古典を題材として習得した技法を生かして創作する。 篆刻・刻字を学ぶ。			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○仮名の学習 ○漢字仮名交じりの書の学習 			仮名の成立を理解し基本を学んだ後、仮名の作品を鑑賞し臨書する。 学習した作品を題材として創作する。 身近な言葉や詩文を題材に漢字・仮名の調和をはかる。			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な作品にふれて、書のすばらしさを感じる。 ・ノート作成、レポートによって、作品を鑑賞する力をつけると共に自己を評価し、表現力を身につける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位	履修学年	1年1類
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて多くの支援を活用して、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要や要点を把握できるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要や要点を把握できるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】基本的な語句や文を用いて、情報や考えを話して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段階から成る文章で書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において見通しをもったり、振り返ったりするなど自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>MY WAY English Communication I （三省堂）</p> <p>※ALTとの活動時には、内容に合わせて「論理・表現Ⅰ」教科書APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I （開隆堂出版）を使用</p>						
学期	内容		学習のねらい				
通年	<p>ALTとのコミュニケーション活動</p> <p>・場面別会話：買い物 / 道案内 / 電話対応 / 旅行 など</p> <p>・スピーチ：発表 / ディスカッション</p> <p>・英検対策：リスニング / 図表説明 / トピック別ライティング</p>		<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動（1時間 / 週）から学ぶ。</p> <p>ALTとの活動時には活動内容に合わせて「論理・表現Ⅰ」の教科書を使用することがある</p>				
1学期	<p>Lesson 1 Proverbs Around the World</p> <p>Lesson 2 Iwago Mitsuaki — An Animal Photographer</p> <p>Lesson 3 Sending Canned Mackerel to Space</p> <p>Lesson 4 Messages from Winnie-the-Pooh</p>		<p>以下の[題材]と[場面]について、[言語材料]を使って学ぶ。</p> <p>[題材] ことわざ、比較文化 / [場面] 講義・学校生活 [言語材料] 現在形・過去形 / 進行形 / SVO(O=that 節)</p> <p>[題材] 自然・共生 / [場面] インタビュー・学校生活 [言語材料] 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身</p> <p>[題材] 若者、食文化 / [場面] 新聞記事・学校生活 [言語材料] 動名詞 / to 不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to 不定詞の形容詞的用法</p> <p>[題材] 芸術、異文化 / [場面] 本、プレゼンテーション・学校生活 [言語材料] 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形</p>				

2 学 期	Lesson 5 Endangered Languages	[題材] ことば、比較文化 / [場面] インタビュー・学校生活 [言語材料] 関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to 不定詞
	Lesson 6 A Wheelchair Traveler	[題材] 異文化、生き方、共生 [場面] ブログ・旅行・地域での活動・電子メール [言語材料] 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that
	Lesson 7 The Fugees	[題材] 平和、共生、スポーツ / [場面] レポート、新聞・地域での活動 [言語材料] 関係副詞 where / 関係副詞 when / 関係副詞 why / 比較級・最上級
	Lesson 8 Avatar Robots	[題材] 科学、生き方、共生 / [場面] 科学雑誌 [言語材料] 条件を表す if 節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~
3 学 期	Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination	[題材] 人物、生き方 / [場面] 講義・家庭での生活 [言語材料] SVO ₁ O ₂ (O ₂ =how to~) / SVO+to 不定詞 / SVOC (C=動詞の原形) / SVOC (C=現在分詞)
	Lesson 10 SDGs – Sustainable Development Goals	[題材] 地域環境 / [場面] プレゼンテーション・学校生活
	For Reading The tale of Johnny Town – Mouse	[題材] 物語 / [場面] 本
学 習 上 の 留 意 点	授業では教科書以外にも、「MY WAY English Communication I ワークブック」や教科書の内容に準じたプリントを使い、内容理解と文法習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べておいてください。また授業後は学習した英文を音読したり、文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながっていきます。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3 単位	履修学年	Ⅰ年Ⅱ類 進学
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて多くの支援を活用して、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を用いて情報や考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを、定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意しながら話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしているかを、パフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか、また粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>FLEX ENGLISH COMMUNICATIONⅠ（増進堂）</p> <p>※ALTとの活動時には、内容に合わせて</p> <p>「論理・表現Ⅰ」教科書EARTHRISE English Logic and ExpressionⅠ Advanced（数研出版）を使用</p>						
学期	内容		学習のねらい				
通年	<p>ALTとのコミュニケーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面別会話：買い物 / 道案内 / 電話応対 / 旅行 など スピーチ：発表 / ディスカッション 英検対策：リスニング / 図表説明 / トピック別ライティング 		<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動（1時間 / 週）から学ぶ。</p> <p>ALTとの活動時には活動内容に合わせて「論理・表現Ⅰ」の教科書を使用することがある。</p>				
1学期	<p>LESSON 1 How Can We Become Stronger?</p> <p>LESSON 2 The Jar of Life</p> <p>LESSON 3 It's Always Sunny in Space!</p> <p>LESSON 4 Malala: Fighting for Women's Rights</p> <p>Optional 1 A Tale of Terror</p>		<p>以下の[分野]について、[言語材料]を使って学ぶ。</p> <p>[分野]日常 [言語材料] 助動詞 / to 不定詞（名詞的・形容詞的・副詞的用法）</p> <p>[分野]日常 [言語材料] 動名詞 / 間接疑問文</p> <p>[分野]科学 [言語材料] 後置修飾/現在完了形</p> <p>[分野]社会 [言語材料] 関係代名詞/過去完了形</p> <p>[分野]物語</p>				

2 学 期	<p>LESSON 5 Mount Fuji</p> <p>LESSON 6 Thomas the Tank Engine and SDGs</p> <p>LESSON 7 Virtual Water</p> <p>LESSON 8 Wearable Robots May Change Our Life</p> <p>Optional 2 Sowing the Seeds of Hope</p>	<p>[分野]文化 [言語材料]使役動詞/節を導く形式主語it</p> <p>[分野]社会 [言語材料]関係代名詞that/強調構文It is...that~</p> <p>[分野]社会 [言語材料]関係代名詞の非制限用法/関係副詞</p> <p>[分野]科学 [言語材料]仮定法過去/仮定法過去完了</p> <p>[分野]自然</p>
3 学 期	<p>LESSON 9 Biomimicry - Inspired by Nature</p> <p>LESSON 10 Donald Keene and His Love of Japan</p>	<p>[分野]自然 [言語材料]知覚動詞/分詞構文</p> <p>[分野]文化 [言語材料]前置詞+関係代名詞/完了進行形</p>
学 習 上 の 留 意 点	<p>教科書や配布されたプリントは、必ず予習・復習を行きましょう。課題は「終わらせること」を目標とするのではなく、その課題を通じて力をつけることを意識して取り組んでください。授業ではペア活動やグループ活動を行うこともあります。他者の意見を尊重し、協力する姿勢を大切にしましょう。また、英語の学習では音読が重要です。間違いを恐れず、積極的に声に出して練習してください。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4単位	履修学年	1年Ⅱ類 特別選抜
到達目標			<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて多くの支援を活用して、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要を把握できるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を用いて情報や考えを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなしているかを、定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意しながら話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしているかを、パフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか、また粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>				
使用教材			<p>FLEX ENGLISH COMMUNICATIONⅠ（増進堂）</p> <p>※ALTとの活動時には、内容に合わせて</p> <p>「論理・表現Ⅰ」教科書EARTHRISE English Logic and ExpressionⅠ Advanced（数研出版）を使用</p>				
学期		内容				学習のねらい	
通年		<p>ALTとのコミュニケーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面別会話：買い物 / 道案内 / 電話応対 / 旅行 など スピーチ：発表 / ディスカッション 英検対策：リスニング / 図表説明 / トピック別ライティング 				<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動（2時間 / 週）から学ぶ。</p> <p>ALTとの活動時には活動内容に合わせて「論理・表現Ⅰ」の教科書を使用することがある。</p>	
1学期		<p>LESSON 1 How Can We Become Stronger?</p> <p>LESSON 2 The Jar of Life</p> <p>LESSON 3 It's Always Sunny in Space!</p> <p>LESSON 4 Malala: Fighting for Women's Rights</p> <p>Optional 1 A Tale of Terror</p>				<p>以下の[分野]について、[言語材料]を使って学ぶ。</p> <p>[分野]日常 [言語材料] 助動詞 / to 不定詞（名詞的・形容詞的・副詞的用法）</p> <p>[分野]日常 [言語材料] 動名詞 / 間接疑問文</p> <p>[分野]科学 [言語材料] 後置修飾 / 現在完了形</p> <p>[分野]社会 [言語材料] 関係代名詞 / 過去完了形</p> <p>[分野]物語</p>	

2 学 期	<p>LESSON 5 Mount Fuji</p> <p>LESSON 6 Thomas the Tank Engine and SDGs</p> <p>LESSON 7 Virtual Water</p> <p>LESSON 8 Wearable Robots May Change Our Life</p> <p>Optional 2 Sowing the Seeds of Hope</p>	<p>[分野]文化 [言語材料]使役動詞 / 節を導く形式主語it</p> <p>[分野]社会 [言語材料]関係代名詞that / 強調構文It is...that~</p> <p>[分野]社会 [言語材料]関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞</p> <p>[分野]科学 [言語材料]仮定法過去 / 仮定法過去完了</p> <p>[分野]自然</p>
3 学 期	<p>LESSON 9 Biomimicry – Inspired by Nature</p> <p>LESSON 10 Donald Keene and His Love of Japan</p>	<p>[分野]自然 [言語材料]知覚動詞/分詞構文</p> <p>[分野]文化 [言語材料]前置詞+関係代名詞/完了進行形</p>
学 習 上 の 留 意 点	<p>教科書や配布されたプリントは、必ず予習・復習を行きましょう。課題は「終わらせること」を目標とするのではなく、その課題を通じて力をつけることを意識して取り組んでください。授業ではペア活動やグループ活動を行うこともあります。他者の意見を尊重し、協力する姿勢を大切にしましょう。また、英語の学習では音読が重要です。間違いを恐れず、積極的に声に出して練習してください。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅰ	単位数	3単位	履修学年	1年1類
到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、次のことができる。</p> <p>【話すこと（やり取り）】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。また様々なアウトプットの活動を通して、意見や課題解決策等を論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと（発表）】基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができる。またスピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に話したり、書いたりする活動の中で使いこなしているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
教材	<p>APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I（開隆堂出版） APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I Workbook（開隆堂出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1学期	Pre-Lesson 1-6 Lesson 1 My Hero Lesson 2 Weather Forecast for Tomorrow Lesson 3 Tips on Visiting a Japanese Temple Lesson 4 The Key to Learn <i>Kanji</i>			Pre-Lesson 1- 6（中学校の既習事項） 現在と過去を表す表現 を習得する。 未来を表す表現 を習得する。 助動詞 を習得する。 完了形 を習得する。			
2学期	Lesson 5 Home-Made Bread Lesson 6 Guinness World Records Lesson 7 Japanese Bentos Are Cool! Lesson 8 Ready for Disasters Lesson 9 Useful Ads on the Internet Lesson10 Who's the Girl Walking with You?			受動態 を習得する。 比較級と最上級 を習得する。 同等比較と倍数比較 を習得する。 動名詞 / to不定詞(名詞的用法) を習得する。 to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法) を習得する。 分詞 を習得する。			
3学期	Lesson11 Going on a Factory Tour! Lesson12 A Sightseeing Spot to recommend Lesson13 If I Were Good at Cooking Lesson14 The Best Place for the Holiday			関係代名詞 を習得する。 関係副詞 を習得する。 仮定法 を習得する。 接続詞 を習得する。			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、「APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I Workbook」や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅰ	単位数	3単位	履修学年	1年Ⅱ類
到達目標	<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、次のことができる。</p> <p>【話すこと（やり取り）】基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合い、そのやり取りを通して、必要な情報を得ることができる。また様々なアウトプットの活動を通して、意見や課題解決策等を論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合えることができるようになる。</p> <p>【話すこと（発表）】基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合うことができる。またスピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの、英語の特徴や決まりに関する事項を理解して身につけることができるか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを、定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】基本的な語句や文を用いて、情報や考え・気持ちなどを、論理性に注意しながら書いたり、表現したり、伝え合ったりしているかを、パフォーマンステストや定期考査等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか、また粘り強く学習に取り組んでいるかを各種課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced （数研出版） EARTHRISE English Grammar in 33 Stages （数研出版） オンライン教材「すらら」 ※毎回の授業の最初の10分程度で行います。（iPadとイヤホンマイクが必要）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1学期	Lesson 1 ～ Lesson 6			文型を学ぶ 時を表す（現在・過去・未来・完了形） 能力・許可・義務などを表す 依頼・勧誘や推量などを表す 「～される」を表す			
2学期	Lesson 7 ～ Lesson 12			「～すること」などを表す（to do）（doing） to do / doを使って表す doing / doneを使って説明する（1）（2） 人や人物について説明する（who, which）			
3学期	Lesson 13 ～ Lesson 15			時や場所について説明する 比較を表す / 仮定を表す			
学習上の留意点	<p>中学で学習した文法事項・単語を学び直すことで定着をはかり、英語の基本ルールに従って正しい英文を作ることができるようにする。また、それらを正しく発音できるようにする。色々な場面における重要で役に立つ表現を習得し、自分からコミュニケーションをとれるようにする。自ら外国語を理解し、それを使おうとする積極的な態度を育て、生徒自身の言語活動（聞く・話す・読む・書く）を豊富に取り入れるることにより、英語を運用する力の向上を目指す。予習・復習の習慣をつける。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2 単位	履修学年	I 年
到達	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。学んだ知識・技能を生かして、持続可能な社会を構築する暮らしの担い手になる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境問題などについて理解している。 【思考・判断・表現】 課題を設定して解決策を構想し、実践を評価し考察したことを、根拠に基づいて論理的に表現するなど、生活の課題を解決する姿勢を身につけたか。 【主体的に取り組む態度】 様々な人と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために主体的に取り組んだり実践しようとしているか。 実習状況、提出物や発表及び、定期考査などを観点に基づいて評価する。						
使用教材	教科書「家庭基礎 自立・共生・創造」東京書籍 資料集「生活学 Navi」実教出版 自作教材						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	家庭科を学習するにあたって 【衣生活】 <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活をつくる ・被服材料の特徴や性能 ・被服の選択と管理実習 			「家庭基礎」の概要について理解する。 被服実習を通して、必要な知識や基礎的技術を習得し、既製品の購入・管理も視野に入れながら、自分らしく生きるために創意工夫する力を身につける。			
2	【食生活】 <ul style="list-style-type: none"> ・食品の衛生と安全 ・食生活をつくる ・調理の基礎 ・栄養と食品 ・献立と調理 			食生活の基本は栄養のバランスを摂ることであることを理解し、日々の自分の食生活を見直し、生涯、健康的で豊かな人生を送るための食生活のあり方を考える。調理の基本を理解し、調理実習を行うことで、実生活に活かすことができる。			
3	【環境】 <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題について ・環境を配慮した生活 			環境問題について積極的に調べ課題をまとめる。身近な生活が環境に与える影響を知り、持続可能な社会を目指したライフスタイルを考え、実生活に活かせるようにする。			
	【経済生活】 <ul style="list-style-type: none"> ・経済生活を営む ・消費問題について 			消費という観点から生活を考え、社会の変化に対応できる自立した消費者を目指す。また、資産形成について学び、生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。			
	【超高齢社会】 <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会を生きる ・高齢者や障がい者について (車椅子体験) ・共生社会について ・高齢者を支える仕組み 			超高齢社会の背景を知り、課題を踏まえて、福祉のあり方と仕組みを学び、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え行動する力を身につける。多様な人々のニーズや、ノーマライゼーションの理念を理解し、今後実生活で実践できることを考える。			
学習上の留意点	教科書・資料集の他にも自作教材を用いた学習や、体験型学習で、できるだけ具体的に理解できるようにしていく。知識を活かし、実習を行うことで、基礎技術の定着をはかるとともに、実生活への応用力を身につける。 レポート作成によって、自己を評価し、自らの生活に応用する力を身につけさせる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	宗 教	科目	一般仏教	単位数	1 単位	履修学年	I 年
到達目標	仏教の開祖の釈尊（ブツダ）の生涯とその教えを中心に学び、釈尊滅後、その思想が東アジア世界の文化形成に大きな影響を与えてきたことを学習する。又、その思想が、現代社会の多くの課題や問題を解決する智慧であることを学習する。						
評価の観点・評価の基準	1. 知識の理解……釈尊の生涯を通して、「伝説」「四門出遊」「降魔成道」「自灯明法灯明」などの意味を把握し、さらに仏教の基本的な「中道」「四諦八正道」「縁起の思想」「三法印」の教えを理解しているかどうかを評価する。 2. 思考……仏教の基本的な教えを学ぶことで、その教えが人生の意味・人生観にとって重要であることや人間の価値・人間観、社会でのあり方・社会観について思考を深めることができたかどうかを評価する。						
使用教材	『高校生からの仏教入門』釈尊から親鸞聖人へ（本願寺出版社）						
学期	学習内容				学習のねらい		
1 学期	4月 1	誕生			・ 釈尊誕生時の時代背景を理解する。		
	5月 2	若き日			・ 若き日の悩みについて理解する。		
	6月 3	出家			・ 生老病死の人生苦を理解する。		
		4 求道	修定主義と苦行主義		・ 修定主義と苦行主義について理解する。		
	7月 4	求道	スジャーターの供養		・ 健全な肉体と精神について理解する。		
2 学期	9月 5	成道	降魔・成道 「さとり」とは説法の決心（梵天勸請）		・ 智慧、如実知見、無明について理解する。		
	10月 6	伝道	①最初の説法 ②三宝の成立 ③教団の発展		・ 自受法楽と梵天勸請について理解する。		
	11月 6	伝道	④寺院の建立 ⑤教団		・ 初転法輪について理解する。		
		7 晩年	①自灯明 法灯明		・ 帰依、敬うことの重要性を理解する。		
	12月 7	晩年	②最後の供養		・ 寺院の建立と教団の生活について理解する。		
		8 涅槃			・ 自灯明、法灯明の思想を理解する。		
					・ 真実に生きる道について理解する。		
					・ 涅槃（入滅）について理解する。		
3 学期	1月	釈尊の教え	1 中道		・ 両極端を離れた中道を理解する。		
	2月	釈尊の教え	2 四諦八正道（その1）		・ 四諦について理解する。		
			2 四諦八正道（その2）		・ 八正道について理解する。		
			3 縁起		・ 縁起、無常、無我の正しい思想を理解する。		
	3月	まとめ	4 三法印		・ 迷いとさとりを理解し、仏教は苦を解決する実践の道であることを理解する。		
学習上の留意点	日本人の無宗教性や仏教への誤解を解き放ち、仏教が日本文化（有形無形）の形成に大きな働きをしてきたことを学ぶ。また、単なる客観的な事象にとどまらず、混迷し不安の多い現代社会の中で、仏教理解を深めることが人生においていかに重要であるかを主体的に受容するとともに、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守につなげていく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	探究	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年	高I学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、主体的かつ計画的に課題に取り組むようにする。 身近なものや環境を深く知り、地域や社会の問題を身近に捉える。 自分の興味・関心のある問題やテーマを知り、物事を客観的かつ科学的に見る力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】探究過程において、課題発見と解決に必要な基礎知識及び基礎技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】身近なものや環境を深く知り、地域や社会の問題を身近に捉えながら、「これからの自分に何ができるか」を見つけだし、自分のテーマを決め発表する。問題解決に必要な情報を様々な手段を選択しながら収集している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】自分の興味・関心のある問題やテーマを知り、物事を客観的かつ科学的に見る力を身につけようとしている。よりよい地域、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。</p>						
使用教材	『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッドZERO』（啓林館）						
1	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の意義・課題研究の目的及び方法を学ぶ。 他校生による探究活動を見る、模擬探究活動を行うことで、探究方法を具体的に学ぶ。 生徒一人一人のスキルアップを図る。 スライド作成方法を学ぶ。発表方法を学ぶ。質疑応答方法を学ぶ。 リサーチクエスチョンについて学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> なぜ探究学習を行うのか、今後の社会・世界の中で、自分自身がどのように生きていくかを考えさせる。 将来も学び続け、答えのない課題を解決に導くための基礎的な力(課題発見スキルやスライド作成技術、研究テーマへの「問い」の立て方等)を身につけさせる。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 興味のわいた研究テーマについて、スライド作成を行う。 スライドを用いたプレゼンテーション作成方法を学ぶ。 グループ活動を行い、プレゼンテーションを作成、発表する。 クリティカルシンキングを学ぶ。批判的思考を学び、自分の身の回りに潜む課題を考える。 情報を探す方法を学ぶ。 身近な課題を解決する方法を探り、世界や社会とつながっているものを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> 「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重」する意識を持たせる。 将来も学び続け、答えのない課題を解決に導くための基礎的な力(思考スキルやコミュニケーションスキル等)を身につけさせる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心のある問題やテーマを考え、研究テーマを決める。 テーマ選定の理由と展望をグループ内で宣言し、他の生徒と共有する。 1年間での自分自身の資質や能力の成長を各人で振り返り、達成できたことやできなかったことを見つめ反省点を明確にする。 		<ul style="list-style-type: none"> 研究やプロジェクトの結果以上に、活動過程での自己理解や自己肯定感の高まりを重視することを理解させる。 				
学習上の留意点	探究の見方・考え方を働かせ、自己の興味・関心や進路選択に基づき、横断的・総合的な課題研究に取り組むことで、あらゆる場面で自ら考え判断し、課題解決に取り組むことができるように、学年所属の全教員が協力し、目標が達成できるよう支援を行う。						

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第 I 学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動に積極的に取り組む中で、望ましい人間関係を形成する。 ・ 将来の自己実現に向けて、自己理解を深める。 ・ 規則正しい生活習慣の確立を図る。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・ 活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 						
学期	指 導 内 容 等						
	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高田高校生としての自覚を持たせ集団生活に適應する能力を育成する。 ・ 学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・ 学年 LHR 		クラブ紹介 クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動		入学式 校外研修 交通安全講話 体育祭 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・ 自分の適正や進路について考え、将来を展望できるよう指導する。 ・ 学年 LHR 		文化祭 生徒会役員改選 委員会活動 ピンクシャツ運動		始業式 避難訓練 文化祭 校外研修 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年間を反省し、次年度の心がまえについて考えさせる。 ・ 自分の夢や生き方について考えさせる。 ・ 学年 LHR 		クラスマッチ 委員会活動		始業式 校内人権学習 学年末考査 終業式		
学習上の留意点	ささまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						